



本康歯科ニュース



「世界中のどの歯医者に行くよりも、この歯医者に来て良かった！！」と思ってもらえる歯科医院めざして！！

手や足に水膨れ「掌蹠膿疱症（PPP）」

掌蹠膿疱症（PPP）は、歯の根の部分や扁桃の細菌感染などによって、体内の免疫反応が必要以上に起き、手足に症状が現れると考えられている。水虫のように患部に付いた菌が原因ではないので、触ってもうつらないが、「うつる」と誤解され、気に病む患者もいる。

細菌による炎症を取り除くことが症状の改善に有効。ある女性が奥歯 2 本の根の先に炎症があった。その歯を処置したり、抜いたりしたところ、大きく改善。それでも残った症状は、耳鼻咽喉科で扁桃を摘出する手術も受けて消えた。

歯周炎などの歯性病巣はPPPの患者の多くで確認されている。まずはその治療を。

口の中の環境と手足の症状の二つの改善が期待できるからだ。日本皮膚科学会が作った「PPPの手引き 2022」にも「歯性病巣が発見されれば歯科に治療を依頼する」とある。ただ、歯や扁桃に炎症があっても、自覚症状がないことも多く、患者は気づきにくい。

細菌感染以外に、歯のかぶせ物や詰め物の金属が唾液などで溶け、イオン化して金属アレルギーを生じ、それがPPPを引き起こすこともある。ただ、既にあるかぶせ物や詰め物の金属除去は、歯の炎症を治療後、PPPの症状が改善したかどうかを確認した上で、慎重に検討すべきだという。かぶせ直しは患者の金銭的負担も大きくなる上、金属を除去してもしなくても、症状の改善に差はなかったという研究報告もあるからだ。

また、アレルギー性接触皮膚炎の原因を特定するための検査としてパッチテストがあるが、PPPへの影響までは分からない。診療の手引きも「パッチテストの結果のみを根拠に歯科金属除去を行うべきではない」としている。「パッチテストが陽性でも、その金属がPPPの原因と決めつけず、皮膚科医、歯科医師の連携を頭に入れて治療に臨んでください」と呼びかけている。

一度気になるようであればご相談ください。

お 伝 え し ま す ！

今、知っておきたい 歯科ニュース



フロスの使用で脳卒中と不整脈のリスクが下がる！

歯をみがく時、「**デンタルフロス**」は使っていますか？ **アメリカ心臓協会**の発表によると、**定期的なフロスの使用は、脳卒中や不整脈の発生リスクを下げる可能性がある**とのことです。これはサウスカロライナ大学医学部神経学分野の調査によるもので、週に1回以上フロスを使っている人と、全く使わない人を比較したところ、使っている人の脳卒中の発生リスクが低いことがわかったそうです。

歯周病になると脳卒中の発生リスクが高まると言われていますので、おそらく**フロスを使うことで歯周病の進行が抑えられ**、今回のような結果になったものと思われます。

歯と歯の間にたまっている汚れは、歯ブラシだけではしっかり落とせませんので、フロスや糸ようじを使ってしっかり除去するようにしましょう。

